

いよいよクライマックスの時間

# 保津川下り

## 一気に嵐山へ

ファイナル!



### 未体験ゾーンへようこそ!

亀岡から京都・嵐山までの渓谷を約2時間で下るスリルに富んだ豪快な川下りです。抵抗なく滑るように流されるその体感、遊園地のアトラクション「急流滑り」の元祖。その迫力と快感、それは大自然がつくった恰好の地形と、最高のロケーションが保つバランスの良さ、そして船頭さんの熟練の棹さばきの技術にほかありません。この保津川下りは古く慶長十一年(1606年)角倉了以が、丹波地方の産物を京都へ送るための産業水路として開いたものでした。今では「世界の名勝保津川下り」として、多くの観光客を迎えています。船頭さんの語りや、四季それぞれの趣きをもった美しい景観、かえる岩、ライオン岩などの面白い自然のオブジェを楽しみながら、この旅のエピソードを満喫してください。



<b>アクセス</b>	JR亀岡駅より徒歩約10分。トロッコ亀岡駅から連絡バスあり。
<b>出船の時間</b>	3月10日～11月30日まで、9:00・10:00・11:00・12:00・13:00・14:00・15:30です。 12月1日～3月9日まで、10:00・11:30・13:00・14:30です。 土・日・祝は不定期運航です。
<b>料金</b>	料金/大人3900円(子供/4歳～12歳まで2500円)

■お問い合わせは...  
保津川遊船企業組合0771-22-5846 <http://www.hozugawakudari.jp/>

亀岡の旅もいよいよファイナルを迎えました。存分に遊び、癒され、味わったこの旅のクライマックスは、やっぱり世界の名勝「保津川下り」でしょう。文豪夏目漱石は、作品「虞美人草」で、舟下りと次々にあらわれる景観や舟頭の棹さばき等、あますところなく描いています。桜、深緑、紅葉、そして雪景色と四季折々に表情を変える峡谷を、豪快にあるいはゆつくりと下っていく、漱石も体験したこのすばらしい自然のアトラクションを一度体験してみてくださいね。

ぷらりひとくちメモ

# お土産

京の伝統を受け継ぐものづくりの技と安全でおいしいものをつくりたいという思いのこもった亀岡育ちの特産品の数々。想い出とともに、あの方へ心からの贈り物。



烏骨鶏スープ(京都食品)

京ものさき(タケモ醤油)



ふる里のみそ汁  
(千ヶ畑営農組合)



でっち羊羹  
(塩武)

モツァレルトが醸した醤油  
(竹岡醤油醸造所)



あぜくら(京つけもの近海)



金の実、しのぐめ  
(くりや)



千枚漬  
(京漬物もり)



丹波亀山焼(渡辺製菓)



栗阿彌(若菜屋)



栗まんじゅう、焼菓子 梅  
(御菓子司日の出)



松茸ばっかり煮(宮本屋)



丹波大納言(朝日堂)



丹波七福米  
(ひのまる米工房)



煎り豆(森井食品)



栗



さくら石



山の芋



亀岡牛



# 亀岡地域 ブランド認定品

亀岡育ちの特産品の中から、「亀岡のよき」亀岡らしさを厳選した逸品を紹介いたします。



とりわけ"made in KAMEOKA"として亀岡産の優れた素材にこだわり、亀岡の風土の中で育まれた特産品を「亀岡地域ブランド」として認定しました。

# 亀岡の野菜

京都市のとなり位置する亀岡は、京都府下でも有数の穀倉地帯で昔から「京の台所」として京の食文化を支えてきました。手塩にかけて大切に育てられた「旬の味」をお楽しみください。



市内のあちこちで生産者が直接販売する朝市が開かれています。

亀岡の郷土には、様々な歴史にまつわる神社や仏閣があり、人々の豊作を願う心や、健康を祈る願いと強く結びついています。その暮らしの中に息づき守り継がれている伝統行事を紹介します。

# 歳時記

1月

- 1日 歳旦祭(市内各神社、大本本部)  
新年のお祝い。神酒・福梅・甘酒の接待がある。
- 3日 福給会(穴太寺、曾我部町穴太)  
赤札を拾えば1年の幸福を授かる。
- 7日 七草粥(大本本部、春陽閣)  
寒風の中で摘まれた七草でお粥が炊かれる。
- 15日 布袋祭(養仙寺、千歳町国分)  
福寿円満・子孫繁栄を祈願して行われる。  
粥占祭(出雲大神宮、千歳町出雲)  
豊作祈願・稲作の作柄を占う神事。
- 初寅の日 初寅さん(神応寺、千歳町毘沙門)  
参拝者には、コブ茶や  
そわかせんべいも配られる。



粥占祭

2月

- 3日 節分祭(市内各神社、大本本部)  
大本本部では「鬼は内、福も内」と豆がまかれる。
- 19日 厄神祭(八幡神社、千代川町拜田)  
悪事・災難を祓い除く祈願。俗に「拜田の厄神」と呼ぶ。

3月

- 1日 トロッコ列車運転再開  
上旬 保津川下り春の開幕行事
- 15日 おしゃかさん(念仏寺、篠町柏原)  
露店や植木市が沿道を賑わし  
春一番の楽しみとなる。



おしゃかさん

4月

- 中旬 観桜茶会(大本本部、花明山植物園)  
新品種「木の花桜」が咲きそろった頃行われる茶会。
- 15日 鬼の首塚例祭(首塚大明神、篠町王子)  
「首から上の病に苦しむ人を助けたい」(源頼光)
- 17日 とこなげさん千日まいり(千手寺、稗田野町)  
「目の観音さん」と知られ、目をいやす湧き水がある。
- 18日 鎮花祭(花祭り)(出雲大神宮、千歳町出雲)  
豊作を祝う踊りや、縁結びの踊りなどが演じられる。
- 24日 鎮火祭(愛宕神社、千歳町国分)  
火の靈力に感謝し火災のないよう祈願する。

5月

- 2-3日 亀岡光秀まつり  
明智光秀公を偲ぶ武者行列や追善供養などがある。  
がん封じ祭(稗田野神社、稗田野町佐伯)  
櫻の木をなでると癌が治る、又かかりにくい。
- 5日 みろく大祭(大本本部)  
「芸術は宗教の母」と、大本本部では能楽がさかん。
- 8日 花まつり釈迦降誕会(市内各寺院)  
花で飾った小堂で、誕生のお姿を安置し甘茶をかける。

6月

- 2日 信長公忌(聖隣寺、東堅町)  
本能寺で横死した日をもって、信長公忌をいとなんでいる。  
毘沙門天まつり(聖隣寺、東堅町)  
福寿円満・家運長久・五穀豊穡・商売繁盛の守神。
- 14日 光秀公忌(谷性寺(光秀寺)、宮前町猪倉)  
光秀公の命日。光秀公ゆかりの桔梗が咲きみだれる。

7月

- 半夏生 水無月祭(歙山神社、上矢田町)  
の 日 奈良時代から始まった  
「茅の輪くぐり」が行われる。
- 第1日曜 御田祭(松尾神社、西別院町犬甘野)  
鎌倉時代から始まったとみられ、  
五穀豊穡を願う。
- 25日 天神法会例祭(市内天満宮社)  
子供みこしや、例祭がとり行われる。



御田祭

8月

- 6-7日 亀岡平和祭  
恒久平和を祈念し、  
丹波音頭大踊りなどが行われる。
- 9日 孟蘭盆精霊会(千日参り)  
(穴太寺、曾我部町穴太)  
お精霊迎えとは、亡き人々の霊を  
おむかえする行事。
- 14日 佐伯灯笼(稗田野神社、御霊神社、  
河阿神社、若宮神社)四社合同祭典  
稗田野神社の灯笼の下賜を祝い  
祭りとして始まる。
- 19日 花まつり(大井神社、大井町並河)  
1.2メートルの大松を主体にした  
立花が奉納される。
- 23日 石仏万燈会(神応寺、千歳町毘沙門)  
夜の石仏庭園に1万本ものローソクが  
ゆらく姿は幽玄。
- 23日 六地藏まいり(曾我部の回り地藏)  
地獄道・餓鬼道など六道を廻り  
庇護を求める。



花まつり



石仏万燈会

9月

- 1日 八朔祭(安行山稲荷宮)(愛宕神社)  
「田の実節句」として、五穀豊穡を祈願する。
- 上旬 秋をめぐる夕べ(大本本部)  
灯ろうの光の中、能楽の披露やお神酒の接待が行われる。
- 6日 湯立祭(岩城神社、千代川町北ノ庄)  
一切の罪を清め、悪疫の流行を防ぐ特殊な神事。
- 24日 石田梅岩墓前祭(春現寺、東別院町東掛)  
心学開祖、石田梅岩の命日。講演会が盛大に行われる。

10月

- 10日~ 秋まつり  
25日 豊作を祝って、市内各地で秋まつりが行われる。
- 20日 保津の火まつり(請田神社、保津八幡宮)  
口丹波ではめずらしい高張ちょうちん行列がある。
- 23日~ 亀岡祭山鉾行事(旧亀岡町)  
25日 宵々山(23日)から山鉾の巡行(25日)もあるミニ祇園祭。

11月

- 第1日曜 八ツ岩権現大祭(嶺松寺、千代川町北ノ庄)  
二十一尊磨崖仏の前で、子供の成長を祈願する。
- 20日 穴川のえびずさん(蛭子神社、吉川町穴川)  
商売繁盛の神、福の神えびず神にあやかっの行事。

12月

- 1日 お火焚祭(安行山稲荷大明神、上矢田町)  
無病息災などの願望を書いた護摩木が何千本と焚かれる。
- 3日 お火焚祭(歙山神社、上矢田町)  
護摩木が焚かれる火にあたると、厄払いができる。
- 31日 除夜の鐘(市内各寺院)